

I 児童生徒の実態に合わせた日本語指導

1 外国人児童生徒等の実態把握と実態に合わせた日本語指導のために

個々の外国人児童生徒等に合わせた日本語指導を行うためには、丁寧な実態把握が必要です。外国人児童生徒教育の手引 No. 26、No. 27 には、外国人児童生徒のための JSL 対話型アセスメント（略称 DLA）の実施や活用方法についてまとめてあります。また、富山県教員応援サイト（外国人児童生徒教育）の「関連サイトへのリンク」に、「外国人児童生徒等の教育のための動画コンテンツ（文部科学省）」のリンクを掲載しています。参考にしてください。

2 日本語初期指導活動例

日本語指導が必要な帰国・外国人児童生徒に対して、特別の教育課程を編成し、取り出し指導として、1 単位時間で行う活動を 3 期に分けて紹介します。

第Ⅰ期の活動例

学校生活を送る上で、最低限の意思疎通のための日本語を習得することを目標とする段階です。挨拶等の日本語や、平仮名の読み書き等を行います。

- ① 授業の言葉を覚えよう
- ② ちょうどの時刻を読もう

第Ⅱ期の活動例

学校生活をスムーズに送るための日本語を習得することを目標とする段階です。学校生活で使用する言葉や片仮名の読み書き等を行います。

- ① 「いたい」を使おう
- ② 身近なものと片仮名を覚えよう

第Ⅲ期の活動例

日常生活や授業・行事に必要な日本語を習得することを目標とする段階です。学校や日常生活、行事で使用する言葉や文、小学 1、2 年生で学習する漢字の読み書き等を行います。

- ① 季節と行事について学ぼう
- ② 動詞を使おう
- ③ 大小、長短などの形容詞を使おう

授業の言葉を覚えよう

目標：あいさつや教室で使われる言葉を理解することができる。

（導入）返事の練習をする。

- ・名前を呼ばれたら、「はい」と返事をする。



うまく へんじ できる かな

（準備物）

- ・あいさつの場面に関する絵カード
- ・基本的な動作（立つ・書く・見る・聞く・読む・書くなど）を表す絵カード

◎あいさつや教室で使われる言葉を理解し、動作で応答する。

① あいさつの練習をする。

- ・自分の国（母語）でのあいさつの言葉を発表する。
- ・あいさつの場面に関する絵カードを見て、あいさつや返事の言葉を練習する。（おはよう、こんにちは、ありがとう等）
- ・友達や教師とあいさつのロールプレイを行う。（「朝です」→「おはよう」 / 「給食を食べます」→「いただきます」
「授業を始めます」→「お願いします」等）

② 「立ちます」「書きます」など、教室で使う言葉を言いながら、教師の動作をまねる。

- ・動作を表す絵カードを用い、「立ちます」「座ります」「見ます」「聞きます」など、教室で使われる動作の母語での言い方を確認し、日本語での言い方を紹介する。言葉にしなから、絵カードや教師の動作をまねる。

③ 教師の言葉を聞いて、動作する。

- ・学習者用端末や電子黒板等のICTを用いて、日本語と母語の両方を提示するなどして、児童生徒の理解を助ける。
- ・教室で使われる言葉に慣れ、自信をもたせるため、何度も聞いたり、教師と一緒に言ったりして繰り返し練習する。



ちょうどの時刻を読む

目標：10分ごとの時刻の言い方を理解し、言うことができる。

(導入)数字の復習をする。

- ・教師に続いて1～12の言い方を練習する。
- ・教師に続いて10とびで60までの言い方を練習する。



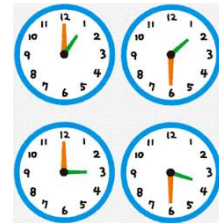
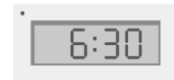
9じって くじ? きゅうじ?

(準備物)

学習時計(針を動かせるもの)
または時計のイラスト

◎日本語での時刻の言い方を理解し、練習する。

- ① 学習時計の数字を見せながら、「1じ」「2じ」と教師の後に続けて繰り返す。
- ② 時刻(10分毎)の言い方を練習する。
 - ・学習時計で「1時10分」を見せて、教師が「1じ10ぷん」と言った後に、繰り返し言う。
 - ・10分、20分、30分...の練習をする。
- ③ 学習時計を用いて問題を出し、「〇じ〇ぷん」と答える練習をする。



- ・アナログ時計が読めないようなら、デジタル時計で練習する。
- ・「よんじ」「ななじ」「きゅうじ」という言い方はしないことを伝え、練習する。
- ・③の活動のあと、毎日の起床時刻や、学校に来る時刻など児童生徒の実生活と結び付けて質問するとよい。
- ・実態に合わせ、5分、10分、15分、の言い方を練習してもよい。
- ・定着するまで継続して指導する。



「いたい」を使おう

目標：体の痛い部位を伝えることができる。

(導入)体の部位の言い方を練習する。

- ・体の部位のイラストを見て、各部位の言い方を練習する。
- ・教師の後に続いて、繰り返す。



あたまが いたいよ
ともだちや せんせいに つたえよう

(準備物)

- ・体の部位のイラスト
- ・痛がっている場面のイラスト

◎「〇〇がいたい」の練習をする。

① 「いたい」の言葉の意味を理解する。

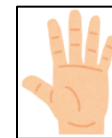
- ・痛がっている場面のイラストを示して「いたい」と言い、児童生徒が言葉の意味を理解できるようにする。その後、教師の後に続いて繰り返し言う。



② 「どこがいたい？」の問いに、体の部位のイラストを見て

「〇〇が、いたい(です)」と答える練習をする。

- ・目、頭、腹、歯等、緊急性の高い体の部位について、十分に練習する。



- ・保健室で、養護教諭に痛い部位を伝える練習をさせてもよい。
- ・習熟の状況に応じて「きもちがわるい」「ねつがある」など他の表現を練習することも考えられる。



第Ⅱ期 (学校生活をスムーズに送るための日本語を習得する。)

身近なものや片仮名を覚えよう

目標：片仮名で表す身近なものや名前を書くことができる。

※片仮名の練習を始めて数時間後の活動として実施

(導入)片仮名カード(一文字)を
フラッシュカードとして読む。



サッカー バasketボール テニス
バドミントン

(準備物)

・片仮名カード ・絵カード ・文字カード

◎片仮名で表す身近なものや名前を書く。

- ① 絵カードを見て、片仮名で表すスポーツの名前を言う。(バドミントン、サッカー等)
 - ・絵カードで言い方を確認した後、文字カードを読む。
 - ・絵カードと文字カードを表向きでバラバラに混ぜた後、マッチングさせ、声に出して言う。
- ② 児童生徒の好きなスポーツを片仮名で書く練習をする。
- ③ 文字カードのスポーツの片仮名を書き写す。



サッカー

- ・平仮名の読み書きがある程度習熟してから、片仮名の読み書きを行う。
- ・片仮名を書く練習をするときは、小学校1年の国語科で片仮名の学習をするときに使う教材を参考にする。
- ・間違えやすい片仮名(リ・ソ・ン、シ・ツ等)は、比較できるように並べて板書するなど工夫する。



季節と行事について学ぼう

目標：季節があること、季節ごとに行事があることを理解する。

(導入) 児童生徒の母国の季節の
行事についてやり取りする。

- ・何月にあるか
- ・どんなことをするか など



なつに はなびを みるのが たのしみだなあ

(準備物)

- ・カレンダー
- ・日本の四季を感じる写真
- ・四季の行事等に関する写真や絵

◎季節と行事について理解する。

- ① 日本の春夏秋冬について、写真(絵)を見ながらどの季節かを予想する。
- ② カレンダーに、その時季(月)の関係する季節や行事の写真(絵)を貼る。
・写真(絵)を貼る際、その季節や行事の名前を日本語で言う練習をする。
- ③ 写真(絵)を貼ったカレンダーで春・夏・秋・冬を分ける。



- ・日本の春夏秋冬は、絵や写真でイメージをもてればよい。
- ・児童生徒は、日本の行事を知らないことも多いので、写真等を用いて簡単な日本語で説明をし、行事について学ぶ機会とする。
- ・日本の四季を連想する歌を歌うこともできる(春が来た等)。



動詞を使おう

目標：動きを表す言葉を理解して、動作で表現することができる。

(導入)教師の指示を聞いて動作で表現する。

- ・普段の授業で使用している指示
(「見ます」「聞きます」「言います」など)
を聞いて、ジェスチャーで表現する。



どんな どうさの ことばが あるのかな

(準備物)

- ・基本的な動作(食べる・飲む・歩く・泳ぐ など)を表す
絵カード
- ・絵カードに対応した文字カード

◎絵や文字で示される動作の言葉を理解し表現する。

① 動きを表す言葉の言い方を練習する。

- ・「食べる」「飲む」「歩く」「泳ぐ」「走る」「寝る」などの動作を表した絵カードを用い、日本語でどのように
言うかを確認する。その後、教師の後に続いて繰り返し言う。

② ジェスチャーゲームを行う。

- ・絵カードを児童生徒Aに見せ、Aがジェスチャーをし、他の児童生徒が日本語で答える。

③ 動作を表す絵と文字のカードを組み合わせ読み上げ、その動作を行う。



た
べ
る

お
よ
ぐ

- ・③の活動の後、カードの絵や教室の具体物を活用して「本を読む」など、言葉
を付け足して、動詞の使用場面について具体的なイメージをもたせるとよい。
- ・発展として、絵カードの代わりに文字カードのみを用いたジェスチャーゲーム
を行ってもよい。



第Ⅲ期（日常生活や授業・行事等で必要な日本語を習得する。）

大小、長短などの形容詞を使おう

目標：反対の意味をもつ形容詞を理解し、使うことができる。

※大きい・小さいは既習

(導入) 具体物で大小を体感しながら「大きい」「小さい」の復習をする。

- ・大小の靴を履いたり、服をあてたりして感じたことを言葉にする。

T:「大きい? 小さい?」

C:「大きい/小さい」



はんたいの いみになる ことばには
どんな ことばが あるのかな

(準備物)

- ・導入で使う具体物(大小の靴や服等)
- ・反対言葉絵カード、対応する形容詞カード

◎反対の意味をもつ形容詞について理解する。

① 反対言葉絵カードを見ながら、「大きい」「小さい」以外の反対の意味になる形容詞を学ぶ。

- ・「高い/低い」「新しい/古い」「速い/遅い」「暑い/寒い」「長い/短い」「多い/少ない」など、カードを見ながら声に出して言う。

② 反対言葉絵カードと日本語をマッチングさせ、声に出して言う。

- ・反対言葉絵カードと、形容詞カードを表向きでバラバラに混ぜて並べた後、マッチングさせる。

③ マッチングさせた形容詞カードの言葉を書く練習をする。



さむい

あつい

- ・児童生徒が複数いれば、ペアを組み、②の活動でどちらが多くマッチングさせられるかを競わせてもよい。

